

The Women's Studies Association of Japan

学会ニュース 日本女性学会
第38号 1989年5月

発行 日本女性学会
事務局 東京都新宿区三栄町17 千160
木原ビル302
フェミニスト・セラビィなかま 気付
TEL 03-359-0902
郵便振替 東京 8-49189
銀行口座 住友銀行日本橋支店(普) 451169
頒価 一部150円

— '89年 春季大会 —

10周年記念対談「フェミニズムをどう生きるか」

1980年代、世界の女たちのネットワークは確実に広まり、ひとり、ひとりの女たちの意識は変わり、解放に向けての運動は飛躍的に前進した。

満10才になる日本女性学会も、この大きな社会状況の変化の中で新しい役割と方向性が求められている。今回の企画は学会の現在の立脚点を確かなものとし、未来に向けてのより具体的イメージを描くためのもの。

パフォーマンス、パーティでの仮装、時代の変化を感じることでできる時間と空間を一緒に作り出したい。多くの方の御参加を。

10周年記念対談「フェミニズムをどう生きるか」

司会 井上 輝子

日本女性学会は1979年に発足して以来、10年の歴史を重ねてきた。創立10周年に当たる今年の大会では、創立以来のメンバーで、長らく代表幹事を勤めてこられた、駒尺喜美、藤枝濠子両氏による対談を企画した。女性学との出会い、女性学会運営上の苦労話、女性学を通して自分たちは何を追求してきたのか、日本の文化的土壌とフェミニズムとの関係、日本の女性学が10年の間に明らかにしてきたことは何であり、今後の課題として何が残されているか、女性学のめざすべき方向性をどう考えるか等々、お二人に3時間半たっぷり語り合っていただく。

駒尺、藤枝両氏とともに、日本の女性学とフェミニズムの成長を点検することが、この企画の主眼である。と同時に、対談を通じて、女性学とフェミニズムへの、お二人の視座の微妙なちがいが自覚的に交錯し合っ、女性学の新たな地平が照らし出されてくることも期待される。皆様、どうぞお楽しみに。

駒尺喜美

1. 日本女性学会の発足から今日まで
 - 私にとってのフェミニズム
 - 初期のころ
2. フェミニズムの現在
 - その成果は?
 - 現状 or 問題点について——各流派について
「近代」をめぐる
「上昇志向」をめぐる
3. フェミニズムの未来
 - 何をなすのか
 - 全人類を解放するのか

藤枝濠子

1. 近代と女性
 - (1) 「女性問題」
 - (2) I期フェミニズム
欧米、日本、「第三世界」
2. II期フェミニズム
 - (1) 日本の「文化的土壌」の構成要素
 - (2) 日本の攻撃的資本主義を支える性役割/ジェンダー
 - (3) 女らしさの意識とイメージ
3. フェミニズム/女性学の課題
 - (1) 研究、教育、実践

個人研究発表. レジメ

国立婦人教育会館の設立とそのプログラム開発に与えた国際的、国内的影響

猪飼 美恵子

「男子大学生の性についての意識調査」

尾上真喜子、小島雅代、亀山美知子

無作為に抽出した4大学の男子大学生500名を対象として性意識に関する調査を行なった。回収数279部(55.8%)と低く、調査者が女子学生であったことから協力がこたわりがあったと考えられる。

<結果>最近では青年層の性の解放が目立つという指摘があるが、今回の対象では現在異性の交際相手があると答えた者は24.3%(性交38.8%)と低かった。また、性体験のある者も全回答者中の32.2%で、他の報告を下回った。性教育の普及の結果、避妊に対する配慮は全回答者中の82.3%と高いが、実際にいつも配慮している者は67.4

%となっている。婚前交渉については85.1%が容認しているものの、相手が妊娠した場合、産ませると回答した者は27.2%と低いなど、ここでも女性側の不利が目立つ

女性像をめぐる超越と内在

村上益子

- ①ボーヴォワールの超越とポテンティク内在
男性的合理主義（目的志向的合理主義）と女性的内在。仕事か自己完成か。
- ②男性的一神教の理性の破壊と内在の氾濫としてのクリステバ。
- ③内在の二つの類型
ディオニソス（全体的内在性）と情動の自立。
「父の娘」でもない、「母の娘」でもない娘の母からの自立
- ④男性的一神教の内属化
ジンメルの内属化した普遍論。
女性的理性の発見の方向。

「物作りの現場からの報告」

——製品開発へのフェミニスティックな視点を探る

右衛門佐 美佐子(プロダクト・プランナー)

戦後、私達の生活は豊かになり、日本経済は物を作って売る事で、繁栄してきたと言っても過言ではないでしょう。私の仕事は、新しい物のコンセプト提案、事業計画、販売計画etc. ですが、産業界にどっぷりと浸っているので現在、この時の産業構造には常に矛盾を感じて暮らしています。実業の分野では、とに角物の生産が大前提でビジネスが動いていき、企業間競争も益々熾烈になっていく中で、歯止めの論理、女性原理に基づく調和ある産業論理、生活論理を考える時期に来ています。(もう遅いかもかもしれないが) キーワードは、テクノロジー、生活、産業経済という大き過ぎるものになると思われそうですが、物作り屋の自己反省も含めてフェミニスティックな視点を探りたいと考えています。どうぞ宜しく。

新聞紙面に現れている、見える性役割・見えない性役割 本郷みどり、小柳圭子

新聞記事上、女性と男性は対等に扱われていない。女性についてのみ、横々な方法で「女性であること」を強調するような表現が数多く見られる。一方の男性については、殊更に「男性であること」を明記するものはほとんどないに等しい。このような表現上の違いは、男性を物事の標準と考え、女性を標準外のものとして扱い、様々な方法で「女性である」という表現を付け加える、私たちの社会の女性観を反映していると思われる。また、同時に紙上での差別表現は、読者に差別意識を刷り込み、強化させるものとも言えよう。

ここでは、記事中の両性についての具体的な表現内容と読み手への効果を考えていく。特に「女」という文字が使用されていない、女性に関する固定観念が色濃く表されている点に注目したい。

ワークショップ・レジメ

ビデオ上映

北沢 杏子

- 「ドキュメント——出産」
- 「愛とは——中絶を考える——」
- 「ノーモア・シークレット」
- 「人間にとって性とは何か」

広告ウォッチング・プロジェクト

船橋邦子、深沢純子

'88年6月の「視覚イメージの政治学」から一年、ステッカーによる意志表示、実地調査、抗議行動なども含め、イメージによる女性差別の現状についての認識、理解は広がってきている。しかし相変わらずの経済優先の状況が、マスメディアを通じての情報支配を推し進めている。いわば「イメージの垂れ流し」状況は続いており、視覚イメージが、女性の外見、行動、意識、無意識、男性との関係にもたらす問題を軽視することはできない。たとえば、女性に対する性的暴力とメディア上のイメージとの因果関係など、この強大な影響力に対し、決定的な対抗理論を組み立てなければならぬ時期にきていると思う。イメージの言語化の困難さを充分認識し、この問題に関心を寄せている方々と、この一年の経過と今後の方向性について論議したい。

幹事会ニュースから

- 8月自主女性学講座 実行委員に内藤和美、猪飼美恵子の二氏。
- 会計年度の変更
現在、88年4月1日～89年5月31日
来年度より毎年6月1日～翌年5月31日
- 幹事の任期 任期終了年の春期大会終了まで。
(従来5月末日) 幹事選挙は2月から3月に変更。
これは、総会での討議事項となります。
- 学会誌編集委員会発足
編集委員は下記の5人のかたに決まりました。
亀山、国信、中安、福井、溝口
- 春季大会の件 別頁参照
- 次回幹事会のお知らせ
日時 6月3日(土) 1:00～4:00
場所 法政大学研究棟6F 第一教養部資料室

会員の異動 '89.1.27~4.23

《新入会》

《退会》

《休会》

《住所変更》

《名簿訂正》

《訂正》

寄贈資料、その他

《寄贈図書》

戦後女子労働史論 竹中恵美子 有斐閣 (著者より)
アメリカ黒人女性解放史 ポーラ・ギディングス、河地
和子訳 時事通信社 (時事通信社より)
語ろうよ ころ・からだ・いのち 全5巻 北沢杏子
岩崎書店 (著者より)

ナブキン先生の素敵なおマンスリーディを 小野清美
光雲社 (著者より)

《寄贈資料》

婦人教育情報 No.19 国立婦人教育会館
国立婦人教育会館ニュース 第44号 国立婦人教育会館
VOICE OF WOMEN No.98、99 日本女性学研究会
えがりて 63号、64号 総理府婦人問題担当室
月刊婦人展望 '89.2月号~4月号 市川房江記念会出版
部
国際女性学会ニュースレター '89年2月、4月号 国際女
性学会
日本婦人科学者の会ニュース No.61 日本婦人科学者の
会
関西女性学研究会ニュース Vol.1~2 関西女性学研究会
婦人情報センターだより No.36 東京都婦人情報センター
婦人情報 No.26 新宿区立婦人情報センター
女のためのクリニック準備会ニュース No.45 女のため
のクリニック準備会
全国婦人新聞 第886~894号まで 全国婦人新聞社
空蟬論—ものあわれと思われた光源氏は強姦魔だった
— (卒業論文) 町野美和
第41回婦人週間ポスター 労働省婦人局
第41回婦人週間ポスター (東京都) 東京都生活文化局
婦人青少年部
新宿区パート女性の実態調査 新宿区総務部婦人青少年
室
婦人関係活動状況(昭和54~63年度) 新宿区総務部婦人
青少年室
'88平和 新宿区総務部婦人青少年室
しんじゅくフォーラム Vol.7

《案内》

- 第41回婦人週間の実施および婦人週間全国会議の開催
('89.5.31)について 労働省婦人局

「1989年女性学自主講座」を会員の手でつくりあげ
ましょう!!

すでにお手許に届けています。8月26日、
27日開催の自主女性学講座。今回は日本にある女性
学の4グループ(国際女性学会、日本女性学研究会、
女性学研究会、日本女性学会)が協力して全国的規
模で開かれる初めての試みです。

これが全米女性学会のような場をつくり出す契機
になれば、どんなにか素晴らしいことでしょう。
皆さまの知のパワーとエナジーが結集し、輝く結
晶が生まれますことを願ってやみません。

春季大会へのご案内

日程 1989年6月10(土)、11日(日)
会場 法政大学市ヶ谷キャンパス
東京都千代田区富士見2-17-1
TEL (03)264-9246
参加費 非会員のみ1000円(各日)

プログラム

第1日 6月10日(土)

- 12:00 受付
13:00 10周年記念対談
「フェミニズムをどう生きるか
—駒尺・藤枝、大いに語る—
駒尺喜美・藤枝淳子・井上輝子(司会)
16:30 総会
18:30 パーティ 私学会館 千代田区九段北4-2-25
☎03(261)9921

第2日 6月11日(日)

- 10:00 会員個人研究発表
①猪飼美恵子 「国立婦人教育会館の設立とそのプログラム開発に与えた国際的、国内的影響」
②尾上真樹子・小島雅代・亀山美知子
「男子大学生の性についての意識調査」
③村上益子 「女性像をめぐる超越と内在」
④右衛門佐美佐子 「物づくりの現場から」
⑤本郷みどり・小柳圭子 「新聞紙面に現れている見える性役割・見えない性役割」
(休憩時間 12:00~13:00)
13:00 ワークショップ
①北沢杏子 ビデオ上映(ドキュメント出産、愛とは一中絶を考える一、ノーモア・シークレット、人間にとって性とは何か)
②船橋邦子・深沢純子
広告ウォッチング・プロジェクト
(使用教室等は当日お知らせします。)

その他

- 昼食
会場近辺は日曜休業の店がほとんどです。昼食持参で御参加下さい。
- パーティ申込追加
パーティの参加希望受付は6月5日(土)まで。
ふるって御参加を。申込みは事務局にハガキで。
- 出版物販売
お互いの仕事を知りあうためにブック・ショップを設けます。出版物と販売用リスト(書名、冊数、代金)をお持ち下さい。(冊数は自由。売れた分の定価の2割を販売担当アルバイト費用として申し受けます。)

パーティについて

鳥居さん、亀山さん、藤枝さんなどから、パフォーマンスやかくし芸の申出、仮装の提案などが寄せられています。それぞれのやり方で日常性を破るスペースづくりを//

会場案内図

